

第十八回 玄和全国競書大会優秀作品



荒木美沙子

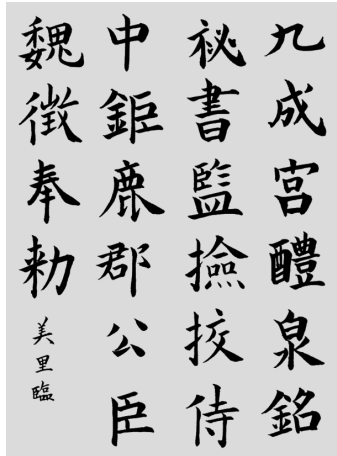
審査所感

学生部は幼年から高校生まで力作揃いであった。特に中学生、高校生クラスになると一般部に全く引けを取らない練度の高いものも見られ、将来的に大成を予感させられた。

学年が下がるにつれ紙面いっぱい大きく書く傾向が強く、個人的には今少し余白も考慮に入れた方が良いのではと感じた。勿論子供らしく大きく力強く書くことも必要だろうがここは捉え方の分かれる部分だと思ふ。

一般部に関しては多くの団体からの応募があり、バラエティーに富んだ作品を見るのが出来たのは新鮮味があった良かった。一言でいえばこの団体も基本的には「春浦調」を基本とした作品が多かったが、中には古典作品をベースにした做書作品もあり、努力の跡が感じられ好感が持てた。ただ実際には消化しきれないものもあり、今後に期待したいところである。また団体ごとの色が明確に出ている、

— 玄和書道会賞 —



大島 美里(高三)



帆足 敏子



杉谷 太粋(小二)



鈴江菜乃子(小六)



野井 忠義(中二)

その団体の目指すところが理解出来たが、残念ながら作品として完成度の低いものもあったのも事実である。またデフォルメが過ぎて判読不能なものも見られた。書芸術は造形美と線質の美しさとの両面から成る芸術である。全体構成が良く、その中に見せ場があり、線性の優れたものが良い。入賞作品はそれらがクリアされており、いずれも練度の高いものであった。作品の規模は小さいもののさながら中央の書道展を見ているようで実感銘を受けた。ただ今回も半紙部において漢詩の一部分だけを切り取ったものがあり、その句だけではまったく意味をなさないものがあった。撰文には十分な配慮が望ましい。

以上簡単に思うままに審査所感を述べたが、制作とは生みの苦しみであり、十分な準備期間とたゆまぬ努力が必要である。次回更なる好作品を期待したいものである。

第十八回 玄和全国競書大会
審査委員長 三浦 士岳



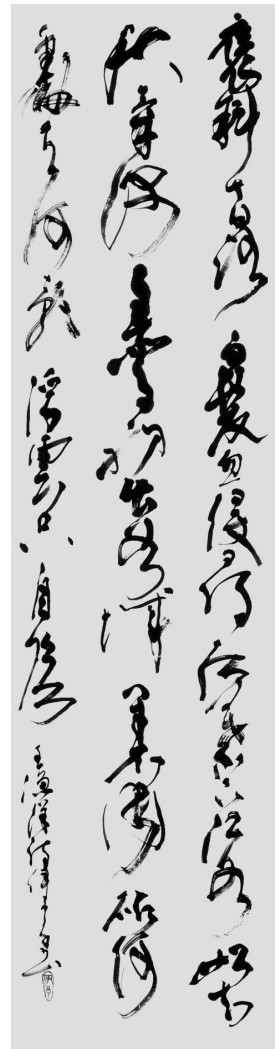
野井 翰娜



奥田紗利奈(高二)



遠藤美代子



岡野伊予子



田村 昌太(小三)



杉谷 健誠(小五)



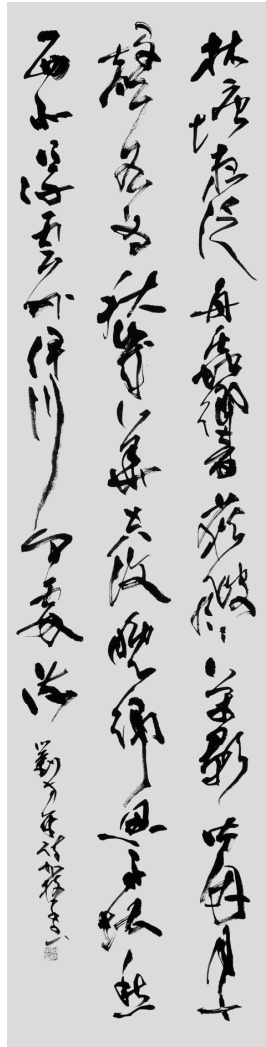
滝口 凜花(中三)



峯雲



宮川 恰郁(高一)



北原加枝子



松崎 澄花



武藤 真之(小一)



横尾 咲楽(小四)



重光 絆花(中一)